

# 第19次ラオス訪問団員募集

南砺ラオス会  
会長 片岸 博

日時 令和5年2月4日(土)～2月9日(木) 4泊6日  
日 費 約239,000円(燃油サーチャージ・空港税等含む)(シングル追加料金24,000円)

募集人員  
ポイント

他に関西空港までの国内移動費が必要です  
約15名 (最少催行人員10名)



ルアンパバン県知事との友好訪問と親善交流  
ルアンパバン県へ鯉のぼり100匹寄贈と設置  
新規開通のラオス高速鉄道乗車と新設の高速道路利用  
現地サンハイ小学校運動会開催で友好交流、托鉢体験と世界遺産視察

締め切り

12月23日(金)  
申し込み相談は、南砺ラオス会各会員又は渉外部長高橋まで(携帯:090-8263-7568)  
南砺市交流協会でも取り次いで頂けます。(電話:0763-52-4548)

予定表

運送機関・天候・現地の事情により一部変更になる場合があります。

	月日	都市	時間	交通機関	スケジュール
①	2/4 (土)	福光 IC 発 関西空港 着 関西空港 発 ホーチン空港 着 ホーチン空港 発 ビエンチャン空港 着 ビエンチャン	深夜 早朝  午前 午後 夕刻	専用車	関西空港へ 福光 IC へ 00:00 集合 ベトナム航空カウンターにてチェックイン ベトナム航空にてハノイへ 着後乗継ぎ手続き ベトナム航空共同便にてカンボジア空港経由でラオスの首都ビエンチャンへ 着後入国手続きを済ませホテルへ 朝食:× 昼食:機内食 夕食:レストラン 宿泊:ビエンチャン ホテル
②	2/5 (日)	ビエンチャン ビエンチャン駅 ルアンパバン駅 ルアンパバン		専用車 高速鉄道	午前:凱旋門、ワットルン等市内見学、 午後:ラオス高速鉄道にて世界遺産の街ルアンパバンへ 市内世界遺産視察 ワットシエントーン、王宮博物館、等見学、ホテルへ 夕刻:ナイトマーケット視察ホテルへ 朝食:ホテル 昼食:レストラン 夕食:レストラン 宿泊:ルアンパバン ホテル
③	2/6 (月)	ルアンパバン 終日		専用車	早朝:托鉢と朝市見学 午前:ルアンパバン県知事表敬訪問、クアンジーの滝視察、途中モン族の村訪問 午後:サンハイ村小学校訪問、運動会開催と交流会 朝食:ホテル 昼食:レストラン 夕食:村民と会食 宿泊:ルアンパバン ホテル
④	2/7 (火)	ルアンパバン 終日		専用車	終日:現地村にて鯉のぼり掲揚作業と地元民と交流。 朝食:ホテル 昼食:レストラン 夕食:レストラン 宿泊:ルアンパバン ホテル
⑤	2/8 (水)	ルアンパバン ルアンパバン駅 ビエンチャン駅 ビエンチャン空港 発 ハノイ空港 着	夕刻 夜中	専用車 高速鉄道	出発まで自由行動 午前:ラオス高速鉄道にてビエンチャンへ 午後:イライ中学校訪問 夕刻:ベトナム航空にてハノイへ 着後乗り継ぎ手続き 朝食:ホテル 昼食:レストラン 夕食:レストラン 宿泊:機内泊
⑥	2/9 (木)	ハノイ空港 発 関西空港 着 関西空港駅 発 金沢駅 着 福光駅 着	深夜 早朝  昼頃 午後	専用車	ベトナム航空にて中部空港へ 着後入国手続き JRにて金沢市へ 専用車にて南砺市へ 到着 お疲れ様でした 朝食:機内食 昼食:× 夕食:×

後援予定: 南砺市、駐日ラオス大使館、ラオス教育省、ルアンパバン県、ラオス国内各新聞紙、南砺市友好交流協会 他



## ヴィエンチャン

about Lao People's Democratic Republic

ラオスの首都であるヴィエンチャンは、メコン川沿いに作られたラオス最大の都市で、16世紀の半ばごろにセタティラート王 King Setthathirat (1548-1571)により首都に定められた。そして現在も政治、経済の中心地で、空路、陸路での出入国のメインゲートともなっており、他の県とは違う行政特別市となっている。1999年6月からは、日本政府の無償資金協力によってできたワッタイ空港新ターミナルが利用されている。街並みはフランス植民地時代の古い建物と並木道、そして数多くの仏教寺院が混在し、アジアと西欧文化の融合が見られる。17世紀にヴィエンチャンを訪れた東インド会社の商人、Geritt Van Wuysthoffやイタリアの伝道師 Leria de Mariniらは当時のヴィエンチャンを東南アジアでもっとも荘厳な町であると評しているが、現在もその面影を見る事が出来る。



### タートルアン That Luang

タートルアン(That Luang)はラオス仏教の最高の寺院で、ラオスの象徴とも言える。伝承では3世紀頃インドからの使いの一行がブツダの胸骨を納めるためにタットルアンを建立したと伝えられるが、定かではない。その後、1566年にセタティラート王 (King Setthathirat)により、四方を四つの寺院に囲まれる形で再建されたが、現在は北と南の寺院が残るのみである。北の寺院、ワットタートルアンヌアはラオス仏教界最高位の僧侶の住まいである。1828年にシャムの侵攻により損傷を受けたが、1936年に改修されて現在に至る。

### パトウサイ (凱旋門) Patousay

ランサン通り Lane Xang Ave.にあるパトウサイ Patousay はパリの凱旋門を模して作られた。ラオス語でパトウとは「扉」「門」の意味、サイとは「勝利」の意味である。下から見上げた天井にはラオスの典型的なモチーフ、神々や3頭の像などのレリーフがある。もともとは戦没者の慰霊碑として1960年から建設が始められ、新空港建設に使用されるはずだったセメントで建てられたものである。朝の8時から夕方5時までの間は上に上ることが出来、ヴィエンチャン市内を一望できる。



## 世界遺産の街 ルアンパバン

### World heritage city Luangprabang

ルアンパバンはランサン王国(1353-1975)の王都で、古くはムアン・スワといい、その後シェントーンと呼ばれるようになった。カーン川とメコン川の合流地点に位置する緑豊かな町ルアンパバンは、その美しいラオスらしい町並みと、歴史的、文化的遺跡保護の観点から、1995年、ユネスコによって世界遺産に指定された。プーシーの丘から町並みが一望でき、ルアンパバン名物でもある夕陽は荘厳だ



### 王宮博物館 Royal Palace Museum

フランス植民地時代の1904年に当時の王シーサワンウォンとその家族の宮殿として立てられた。メコン川沿いに位置し、メコンを旅してきた公式客を出迎えるための棧橋を備えている。現在は博物館になっており、世界各国からの贈呈品や黄金仏などが展示されている



### パクオウ洞窟 Pak Ou Caves

王宮博物館の棧橋より船で約2時間、メコン川をおよそ35km 遡る。16世紀にセタティラート王により発見されたといわれ、洞窟内には人々が運び込んだ4000体以上の仏像が安置されている。



### ワット・シェントーン Wat Xieng Thong

この寺院は、1560年にセティラート王によって王家の菩提寺として建立された。屋根が軒に向かって低く流れるように作られている、典型的なルアンパバン様式の建物で、ルアンパバンで一番荘厳な寺院である。本堂裏側のタイルによって描かれた「生命の樹」のレリーフは素晴らしく、一見の価値がある。